



全委員長会議

委員会活動とは、子供たちにとって学校生活がより楽しく、より充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、課題に自治的に取り組んでいくための活動です。本校の委員会活動は、子供の考えを活かして、アイデアを出し合いながら活動していきます。これらの活動を通して、「自分一人のためだけではなく、自分を含めたみんなの役に立つことの大切さ」を体感しています。委員会活動の時間は、子供たちの成長に繋がるばかりでなく、学校文化も豊かになっていきます。



その委員会活動の委員長が定期的に集まって、全委員長会議を開催しています。校長室に全員が集まって、互いの委員会の進捗状況やスケジュールの確認を行い、イベントなどの重なりがないようにしています。また、大きな集会などでは、協力できることなどを話し合っています。

昨日30日に、全委員長会議が校長室で開催され、私の方から「①委員長の皆さんはリーダーという立場なので、生活面・学習面を充実させてほしい ②委員会活動をするときは『4つの心』のどこを意識して活動するか考えて取り組んで欲しい ③百点満点の活動ではなく、今できる Max の力を出して欲しい。」ということをお伝えしました。これからも「わくわく」する学校創りに貢献してほしいと思っています。

アメリカに18歳市長誕生

今年1月の毎日新聞の記事です。「アメリカ南部アーカンソー州にある小さな町で、18歳の市長が誕生しました。アメリカで最も若い市長になるといいます。同州アール市であった市長選で、高校を卒業したばかりのアフリカ系アメリカ人のジェイレン・スミスさんが当選しました。ワシントン・ポスト紙は、スミスさんについて『アーカンソー州のティーンは変化が来るのを待てなかった。だから市長に立候補した。そして、勝った』との見出しで伝えました。」

この記事を読んだときに、2022米タイム誌が「次世代の100人」に、日本を拠点に活動する若者が選ばれたことを思い出しました。低迷する若者の投票率を上げるための活動を続ける NO YOUTH NO JAPAN 代表理事の能條桃子さんです。能條さんが発信した SNS の投稿には、「同世代を選挙に送れない U30 世代は、私たちの世代の願いや想いを託すために、政治家を選ぶ必要があるのです。私たちがいるよと示すために、選挙に行く必要があるのです。20代の1.5倍いる60代が、20代の2倍選挙に行く。これが今の日本の現実です……一緒に何かやりませんか?」と書かれています。

選挙権は18歳から得られますが、参議院の被選挙権は30歳までで、18歳から30歳までの若者は、政治家としての政治参加はできません。社会を写す鏡である学校では、子供たちや若い先生の発想はとても貴重です。若手とベテランの様々な価値観が相まって、新たな文化を創造していくからです。政治の世界こそ若者の力は必要だと思います。人それぞれに、思いや願いがあるはずで、選挙という活動を通して、投票すること以上に、政治について考える時間やプロセスが今の日本には大切だと思います。